

藤並の森

Vol. 81



2009. 11. 23. 高知馬路村

© Akiko Ikeda/Wachifield Licensing, Inc.

リレー随筆

ダヤン高知へ！

池田 あきこ

高知県立文学館では現在進行形で原画展を開催中！

絵本や画集の原画に加え、展覧会のために作成した立体作品の展示もあります。

ひとつはおかしな形の5面体「スウィングタシル」。広場の上の空は昼なのに、街には夜空が広がり、立ち並ぶ建物はいつたいたどつちを向いているのか、あら、不思議。鏡の天井ではリスが吹き鳴らす半円のスーサホーンは丸くなり、塔のてっぺんはまるでペンローズの階段のよう。

もうひとつはめまいがするようなトリックアーの「動く街角」。

展示室を進んで右に回ると正面に見えてくるから、ちよつと首を右に左に振ってみて。

おやおや、なんだか街が動き出す。見えなかった遠くの街角がだんだん見えて来たり、消えて行ったり。近づくほどにその揺れは大きくなり、うんと近寄つてよく見れば、なーんだこうなつていたのか！と気づくはず。人の目の錯覚を利用して描いた作品です。

このふたつは絶対絵本にはできない。会場に来なければその面白さは分からないから、ぜひ見に来てね！

その他、前に高知へ来た時に描いたスケッチも展示しています。

名高い高知の日曜市。話には聞いていたけれど、高知城を望む大通りの道いっぱいには繰り広げられる日曜市の賑わしは天下一。私は市が大好きで、各地の市をたくさんスケッチしてきました。さて、ここでは何を描きましょう？

描きたいものがいっぱいあるけれど、うん、これは面白いと思つたのが、「88番ダイコンヤ」。ほのぼのしく豊かに太った紅化粧、黒くひねこびたくろすけくん、姿かたちは違つても、みんなおんなじ根菜仲間。それからは「同じ仲間ですれぞれ違う。みんな違つてみんないい。」にはまつた私はいろんな形のケンピを描いたり、干物を描いたり。

そもそもわちふいーるどの世界のコンセプトのひとつがまさにそれ。

動物だけでなく、いろんな生き物がいっぱいいて、見た目も性格も全く違うけど、それぞれがお互いを尊重しながら暮らしています。

展示室一番右の「森の音を聞いてごらん」という絵本の中に、木の根っこをのぞき込んでいるダヤンとバナラの絵があります。根っこの下に広がる枯葉の中にもたくさんさんの生き物が隠れています。葉っぱや枝に擬態してるから、見つけにくいけど探してみても、この絵本はそれまでの展示とはちよつと違って、ボルネオの森を舞台に描かれたものです。日本から一番近いジャングルのあるボルネオ島では今そのすてきな森がどんどんなくなり、動物たちが住処を失っています。

2011年から私たちは森を守るための活動を始めました。パームヤシのプランテーションにならないよう森を買って、動物たちのものにします。今ボルネオには「ダヤンの森Ⅰ、Ⅱ」があり、「ダヤンの森Ⅲ」を取得するべく頑張っています。こちらにもご協力頂ければうれしいです。会期は6月24日までなので、どうぞ会場でゆつくりとした時の流れをお楽しみください。（絵本作家）

池田あきこ原画展

—タシルの街とフォーンの森—

開催中の企画展
をご紹介します!

4月7日(土) ダヤン、高知へ!
池田あきこ原画展
—タシルの街とフォーンの森—
が始まりました。

初日は、午前と午後の2回、池田あきこ先生によるギャラリートークとサイン会が行われ、多くのお客様が文学館を訪れてくださいました。池田先生の魅力的なギャラリートークに、会場溢れんばかりのお客様は釘付けとなり、あつという間に「わちふいー」の世界に誘われてゆきました。

「わちふいー」では、地球よりもゆったりとした時間が流れています。日常を忘れ、会場では、ゆっくりお過ごしください。という池田先生のご案内にみなさん笑顔で領いておられました。

「動く街角」の展示コーナーでは、先生の誘導に従って身体を左右に動かし「本当に街が動いて見える」「素敵」などと言った声が飛び交い、楽しい時間を過ごされている様子が伝わってきました。



▲会場の様子



今回の展覧会は、130冊程ある先生の著作の中から、『ダヤンの街とフォーンの森』『森の音を聞いてごらん』『ダヤンのアベコベアの月』『ダヤンのフォーチュンカード』『ダヤンのめいろう』『ダヤンとうさぎの赤ちゃん』といった作品の原画と絵本を中心に紹介しています。

他にも、身体を左右に動かすと街の絵が動いて見える「動く街角」。絵と4枚の鏡で構成された「スウィングタシル」など、トリックアートを使用した立体的な絵などがあり体験できるのも魅力の一つです。

そして、エルタシルの郵便局(ダヤンへのお手紙がかけるコーナー)を設置した、2階ロビーでは、全て撮影可能となつていますので、自由に写真をお撮りいただけますし、1階ロビーでは、絵本を始め、ダヤングッズをたくさん取りそろえていますので、きつと、お楽しみいただけます。

ウィークデーは、比較的空いていますので、ゆっくり御覧になりたい方は、是非、月曜から金曜においでください。館員一同、お待ちしております。

(学芸課長/津田加須子)

展覧会を盛り上げる多彩な関連企画も随時開催中! 詳細は裏表紙のカレンダーをご覧ください。

池田あきこ原画展

—タシルの街とフォーンの森—

2018年(平成30年) 4.7土 ▶ 6.24日 会期中無休



高知県立文学館の職員による、館内おすすめスポットやひとことコメントです!

テーマ: 私のひとこと!

文学館と共に歩んで21年。初めて手がけた人気のキャラクター展。只今、入館者1万人を目指し奮闘中!



学芸課長/津田 加須子

テーマ: 私のひとこと!

この4月から文学館1年生。少しでも文学の素養を高めたいと思っています。



副館長/伊藤 和行

テーマ: 私のイチオシ作品

寺田寅彦「団栗」

妻を失った深い喪失感と愛が、残された娘に向けたまなざしを通して淡々と描かれる場面は圧巻。



館長/岡崎 順子

「幕末維新の文学と歴史展」で 歴史文学を楽しむ



▲展示風景

◆平成30年度の常設展企画コーナーでは
「幕末維新の文学と歴史展」をご紹介します。

今年度の常設展企画コーナーでは幕末維新博関連企画として「幕末維新の文学と歴史展」と題し、幕末維新を題材とした歴史文学とそれを書いた高知県ゆかりの作家を一年間通してご紹介します。

歴史文学と一口に言ってもその内実はさまざまで、歴史に伝えられた記録を正確に記した限りなく歴史学に近い作品(例：森鷗外や大岡昇平作品)から、古い時代の事件や人物に題材をとり想像を駆使して書かれた作品(例：田岡典夫や山本一力作品など)まで幅広く存在します。

この展示では、二つの視点から歴史文学を紹介しています。一つは幕末維新の出来事をどう切り取ったかという視点で、歴史年表とともに作品を挙げ、比較することによってその特徴を浮かび上がらせています。安政地震を例にとると、宮尾登美子の「天璋院篤姫」(昭和58〜59)では伽羅の香りに包まれた篤姫が突然の揺れに驚くシーンが書かれ、一方田岡典夫の「どさくさ易者」(昭和30)では揺れても筵が落ちて来るだけと開き直る庶民の姿がユーモラスに書かれます。取りあげる人物の視点によって歴史が違って見えてきます。

もう一つは作家ごとのご紹介です。

例えば井伏鱒二の『ジョン万次郎漂流記』(昭和12)は次第に日米間が険悪になつていった時期に書かれたものですが、万次郎たちと彼らを救った船長のホイットフィールドの友情に重点が置かれ、人と人とのつながりが大切という井伏のメッセージがより強く伝わってきます。

また大岡昇平は森鷗外の『堺事件が史料を恣意的に使っていると鋭く指摘し、『堺港攘夷始末』(平成元)によって公正な歴史叙述を目指しましたが、背景には戦前の歴史認識の偏りに対する反省が認められます。

このように、作家によって歴史文学を書く動機も方法も異なっていますが、どの作家も史料と史料の間の声にも耳を澄ませながら真摯に人間や事件に向き合つて書いていることがわかります。

初紹介になる司馬遼太郎の色紙の他、浜本浩の草稿「坂本龍馬とピストル」、宮地佐一郎の草稿「容堂の涙」など貴重な資料とともに歴史文学の魅力をご紹介しますので、この機会にぜひご覧ください。

(学芸課／川島 禎子)



▲初紹介の司馬遼太郎色紙 (写真左)



高知県立文学館の職員による、館内おすすめスポットやひとことコメントです！

テーマ：私のイチオシ作家

有川浩さんと畠中恵さん

大人になってはまった有川浩さんと畠中恵さん。

どき²わく²
くす²+涙で
心がほぐれます。



総務事業課／萩野 佐和子

テーマ：私のおすすめスポット！

流正之 作品

正面玄関の「ごちゃごちゃいわんとはいってきいや」のプレートと中庭の「土佐文学塚」ぜひ見てください。



総務事業課／西岡 小百合

テーマ：私のおすすめスポット！

常設入口の文学マップ

山と海に囲まれた高知、なのにこの豊饒な文学！

常設入口の文学マップを見て、その謎を考えるのが楽しみです。



学芸課／川島 禎子

常設展 虫めがね

「反骨の大衆文学」コーナー
黒岩涙香から田中貢太郎へ



大町桂月を師と仰ぎ、井伏鱒二や田岡典夫など数々の後進を指導した作家・田中貢太郎。

展示は 5 月上旬 を予定！

奥宮健之らに自由民権期の裏話を聞き取り、田岡嶺雲の代筆で『明治叛臣伝』を執筆した貢太郎は、その後実録ものの作家として人気を高めていきます。混迷を極めた明治初年を背景とする代表作『旋風時代』は、実録ものの執筆スタイルの集大成でもありました。

今年2年目となる高知県の幕末維新博に合わせ、貢太郎の幕末維新を題材とした作品を中心に紹介します。
(学芸課／川島禎子)

見どころ…河野通勢「旋風時代」挿絵、
『明治叛臣伝』(明治42年 日高有倫賞) ほか



▲河野通勢画「旋風時代」挿絵



▲菊池寛賞時計

展示は 6 月下旬 を予定！

「現代の文学」コーナー
小山いと子から大原富枝へ

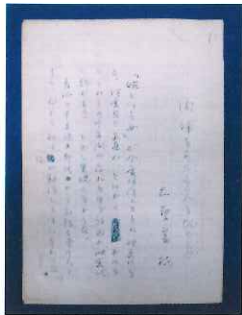


大原富枝文学館所蔵

時代や運命に翻弄されながらもひたむきに生きた女性を描き続けた大原富枝。

結核療養中に短詩型文学や小説を書き始め、過酷な人生を健気に生きていく女性の作品を次々と発表し、女性が生きる「女性を生きる」とはどういうことかを題材にした、大原にしか描くことのできない文学を確立していきました。珠玉の大原文学の中から、文学賞・文学者賞を受賞した作品を中心に紹介します。
(学芸課／檜垣佳甫)

見どころ…大原富枝書色紙、
『婉という女』映画化の際に書いた大原富枝草稿「肉体をあたえられるたのしみ」ほか



▲大原富枝草稿
「肉体をあたえられるたのしみ」

来館のたびに新しい発見があると好評の「変わる常設展示」。今年度は3人の作家の入れ替えを予定しています。

展示は 夏～秋頃 を予定！

「近現代の詩歌」コーナー
北見志保子から浜田波静へ

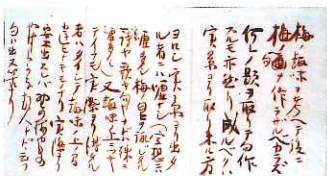


正岡子規に師事し、高知近代俳句の先駆となった俳人・浜田波静。

来高した河東碧梧桐を歓待し、また田中貢太郎と共に「夜来吟社」を起こすなど、俳人や作家との親交を通して高知俳壇に大きな影響を与えました。

子規に与えられた朱筆の俳論(複製、碧梧桐の提唱する新傾向俳句に打ち込んだ波静の短冊の数々など)とともに、波静の辿った俳句の遍歴や高知の俳壇への貢献を紹介します。
(学芸課／川島禎子)

見どころ…浜田波静書俳句、
正岡子規が波静に与えた朱書俳論(複製) ほか



▲子規朱筆俳論(複製)

高知県立文学館の職員による、館内おすすめスポットやひとことコメントです！

テーマ: 私のおすすめスポット！

文学館前の「藤並の森」

文学館前の「藤並の森」は、憩いの場。「木洩れ日コンサート」の会場にもなります。



総務事業課／中澤 淑

テーマ: 私のおすすめスポット！

エントランスから見える中庭

土佐漆喰の壁と緑の蔦。非日常の静けさが好きです。



総務事業課／大原 良子

テーマ: 私のイチオシ道具！

データロガー

当館の温湿度管理にとって心強い存在。毎月データを回収し、全職員で調査結果をチェックしています。



学芸課／檜垣 佳甫

土佐の紙行脚

消えていく名紙をたずねて――

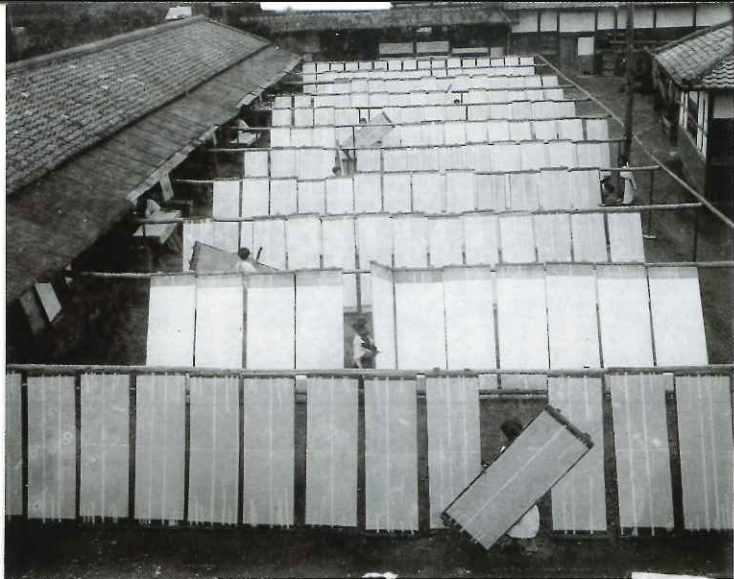
猪野 睦

土佐の紙漉きをたずねて寿岳文章が、高知へきたのは1939年3月だった。80年ほど前になる。徳島の神領村、半田村をへて高知へ入った。そこでは石の盤上で楮を棒で叩き、竹簀で障子紙を漉いていた。

紙漉 楮植という地名もあり、早春の河原の石の上に坐つて、楮を洗う娘らの手の荒れをみた。ほとんど耕地のない稗と馬鈴薯で生きている村だった。

「紙漉村旅日記」として寿岳文章は、全国を歩いた日記を残した。私本として当時150部つくるが、戦争末期の1944年に弘通本にした。手漉紙行脚の日々の記録を同行の夫人とともに記した。

昭和初期、中田製紙工場での板干し作業の風景。現在の町の博物館が建っている場所にあった（画像提供／いの町の博物館）



高知へ入ったのは3月24日、日中戦争も2年目に入っていた。山へ入るのは途中までバス、あと歩いた。高知市では山内侯爵家をたずね長曾我部地検帳の原本を見せて貰う。当時抄かれた紙の見本としても貴い強靱な楮製の表紙で繊維も太い。楮畑の記録もあった。神谷村の成山の御用紙漉から上納された話も聞いた。

3月25日、近世紙業発祥地である成山へ。小さな段々畑が続く、ムシロ一枚かぶせたら見えなくなるほどの畑を見るが、この貧しい成山が名紙発祥の地であった。藩用紙の七色紙を漉きたてた新之丞は秘法の他へもれるのを恐れ斬り殺された哀話もあった。このあと伊野駅から汽車で須崎へ、バスで久礼坂を登り夜窪川へ着いた。

3月26日、窪川から伊予行きのバスで四万十川沿いに下り、昭和村、十川村で漉いている仙貨をみた。昭和村の細々野、小野、久保川で漉いていた。仙貨はここにしか残っていないもので、それを見るためにわざわざ細々を訪ねたと後に語っている。ほろびていく名紙が漉かれていた。桑の肥料に麦作に天秤棒で肥を荷なう娘たちの姿をかきとめていた。当時からける農村風景だった。

今から40年ほど前、ミツマタ栽培調査をしたことがあった。上八川の山上で県道から山へ車が入り、途中から山上へ歩いた。急傾斜地の山をはぎ拓き、そこに手入れのゆき届いたミツマタが伸びていた。ここも藩制時代からの栽培地であったのか。

「紙漉村旅日記」からは、続いてきた土佐の紙の歴史を教えられた。山畑に働く当時の農作業の描出とともにすぐれた文学作品と言ってもいいと思いが読んだ。（詩人）

資料受贈報告

受贈報告（平成30年1月～3月）敬称略

- ▼宮尾環・「宮尾登美子草稿」
- ▼嶋岡農・「みらいらん 1号 池田康編洪水企画刊」他
- ▼吉本光徳・「とんちゃん新聞 1～100号（一部欠号有）成吉思汗編刊」他
- ▼小学館・楊梅の熟れる頃 宮尾登美子著 小学館刊
- ▼論創社・森下雨村探偵小説選Ⅲ（論創ミステリ叢書111）森下雨村著 湯浅篤志編 論創社刊
- ▼中央公論新社・酒は人の上に人を造らず吉田類著 中央公論新社刊
- ▼河出書房新社・作家と楽しむ古典 土左日記 堤中納言物語 枕草子 方丈記 徒然草 堀江敏幸他著 河出書房新社刊
- ▼小松弘愛・「詩学 36巻6号 昭和56年度H氏賞特集号 詩学社編刊」
- ▼山本清水・「詩集 風の遠吠え 山本清水著刊」
- ▼杉本雅史・「文学学校60年 高知文学学校創立60周年記念事業実行委員会編 高知文学学校刊」
- ▼島村三津夫・「島村泰吉記念アルバム 歌集「めじな」 島村泰吉著 島村三津夫刊」
- ▼野村丞子・「歌集 早春の譜 第9集 高知県退職婦人教職員連絡会 短歌サークル編刊」
- ▼岡田邦彦・「とんちゃん新聞80号記念縮刷版 とんちゃん 竹内直人編 吉本健児刊」他

このほか、全国の個人・関係機関の方々から図録など数多くの資料をご寄贈いただきました。厚くお礼を申し上げます。



高知県立文学館の職員による、館内おすすめスポットやひとことコメントです！

テーマ：私のおすすめスポット！

1階 情報スペース

全国の文学情報をここで発信！温かみのある木のカウンターもリラックスできます。



学芸課／福富 陽子

テーマ：私のおすすめスポット！

常設展映像コーナー

常設展の映像コーナーは各作家の生涯を分かりやすく紹介しておすすめてます！



学芸課／岡本 美和

テーマ：私のおすすめスポット！

常設展閲覧コーナー

閲覧コーナーは高知文学の皿鉢。小説、詩集、郷土雑誌、名作に新作と多彩です。



学芸課／小松 路代

平成30年度 文学マイスター講座 受講生募集!

平成10年度からスタートし、多くの皆様に受講いただいた文学カレッジ・文学専門講座が、30年度より「文学マイスター講座」として新たにスタートします。

文学マイスター講座は、文学カレッジと文学専門講座を融合させ、1年で1つの作家・作品に迫る文学講座です。古典から現代の作家・作品まで、高知県に関連する内容を中心に、時期的なテーマもまじえ、深く掘り下げていきます。全回を通して受講いただくことで、作家・作品への理解や興味をこれまで以上に深めてもらうことが目的です。

初年度は、生誕140年のメモリアルイヤーを迎える寺田寅彦にスポットを当て紹介します。各分野に造詣の深い講師の専門的な講義に加え、寅彦の文学をより深く理解していただくため、花や連句などの文化的な面からも迫ります。また、ゆかりの地をめぐる回では、パワーポイントを使用し、寅彦が行き来した地をバーチャルで辿りたいと思います。他にも、秋からの企画展にあわせ地震をテーマにした回や、父・利正が関わった井口刃傷事件を歴史資料から見る回もあります。全9回の講座を終える頃には、きっと寅彦マイスターになっているはず! 多角的な視点から、寅彦と彼が生きた時代に思いを馳せながら、受講いただければと思います。事前に受講申込書を提出いただくか、電話・メールまたは文学館受付にてお申し込みください。(学芸課/野々村昭美)



- 【第1回】4月28日「寺田寅彦の生涯と文学」
講師 川島 禎子 (高知県立文学館主任学芸員)
- 【第2回】5月26日「科学者・寺田寅彦」
講師 鈴木 堯士 先生 (高知大学名誉教授)
- 【第3回】6月23日「八雲と寅彦」
講師 細川 光洋 先生 (静岡県立大学教授)
- 【第4回】9月22日「寺田家と井口刃傷事件」(仮)
講師 片岡 剛 先生
(高知県立高知城歴史博物館学芸員)

- 【第5回】10月27日「寺田寅彦と地震」(仮)
講師 大村 誠 先生 (高知県立大学教授)
- 【第6回】11月24日「寺田寅彦ゆかりの地をめぐる」(仮)
講師 佐藤 元紀 先生 (高知高等専門学校講師)
- 【第7回】12月22日「寺田寅彦の小惑星」(仮)
講師 関 勉 先生 (芸西天文学習館講師)

- 【第8回】平成31年2月23日「連句と寅日子」
講師 市川 浩司 先生
(俳号・千年/日本連句協会会員・芭蕉会議世話人)

- 【第9回】平成31年3月23日「寺田寅彦邸の花に想う」(仮)
講師 伊東 喜代子 先生 (寺田寅彦記念館)

※講師・日程は変更することがあります。

文学館のカルチャーサポーターさん♪

平成30年4月1日現在、文学館では、館のボランティアであるカルチャーサポーターに72名の方が在籍し様々な活動を通じて館の運営を支えてくださっています。今回はその活動についてご紹介したいと思います。

カルチャーサポーター事業は平成12年から高知県文化財団の運営する4施設で開始され、それに伴って、文学館では平成12年度に最初の募集及び研修を行い第1期生が誕生、それ以降も活発に発展し今に至っています。

活動は「文学散歩」「資料整理」「イベント補助」「朗読」「紙芝居普及活動」「草の根広報部隊」の6分野に分かれており、パソコンでの入力や資料の保存作業、イベント当日の受付や年間を通じての朗読の会、館内外での紙芝居公演、また、地域に根差した広報活動など、カルチャーサポーターさんお一人お一人の熱意ある取り組みによって、文学館は支えられています。

また、今年度からは新たに「読み聞かせ」も加わり、新しい展開を目指しているところです。皆さんの力強いサポートを得て、ともに歩み、魅力ある事業を目指していきますので、今後ともよろしく願います。

なお、カルチャーサポーター活動に興味のある方はぜひ、文学館学芸課 担当/道脇までお問合せください。

(学芸課/道脇夕加)



▲「紙芝居普及活動」の「おはなしキャラバン」



▲文学散歩『街道を行く』～橋原町

高知県立文学館の職員による、館内おすすめスポットやひとことコメントです!

テーマ:私のおすすめスポット!

ミュージアムショップ

ミュージアムショップが充実しています!
当館オリジナル商品は来館記念やお土産にどうぞ。



総務事業課/妹尾 佳奈

テーマ:私のおすすめスポット!

中庭のガラス越しに見上げる空

中庭のガラス越しに見上げる空はとても静かで。まるで時間が止まっているかのようです。



学芸課/道脇 夕加

テーマ:私のおすすめスポット!

藤並の森

木洩れ日コンサートが行われ、鳥のさえずりや風のそよぎが心地良く響きます。
ここはまるで、わちふいーなどの森のよう…。



学芸課/野々村 昭美

上橋菜穂子とへ精霊の守り人展 好評のうちに閉幕しました！

2月3日(土)、上橋菜穂子先生をお迎えしてギャラリートークを開催いたしました。

上橋先生は8年ぶりのご来高で、高知県内外から多くのご応募をいただいた中、抽選で選ばれた約100名様にご参加くださいました。今年の冬は随分寒い日が多かったのですが、ギャラリートークのこの日だけはぽかぽか陽気の素晴らしいお天気で、参加者の皆様の「上橋先生に会いたい！」という思いが通じたようです。

ギャラリートークでは展覧会に出展されている資料について、「精霊の守り人」の創作時のお話など、興味深く貴重なお話を、ユーモアを交えてお話ししてくださいました。

改めて、海外フィールドワークのご経験が、物語の底流に流れる「多文化共生」というテーマへと繋がっていくことがよくわかりました。短い時間でしたが、質問タイムもあり、朗らかで素晴らしい午後のひと時となりました。

関連イベントとして高知県内の学校様より「守り人」シリーズの本の帯を募集し、階段に掲示いたしました。ご協力いただきました学校様には上橋先生のサイン入り図録をお送りいたしました。

そのほか、認定NPO法人高知こどもの図書館様とご飯屋おねおね様に協力していただいた「ブックトークツアー」やワークショップなど事前予約イベントは満員御礼。予約

記念講演会の様子



絵 佐竹美保
『サグミとナユグー—混じり合う世界—』2016年

不要のイベント朗読の会、木洩れ日コンサートも盛況で、四国内外から多くのお客様にお越しいただき「精霊の守り人」の世界に浸る2か月となりました。(学芸課/谷岡真衣)

館長室から

2年目の春に思う

岡崎 順子

3月、全国で最初に開花が宣言され、話題になった高知の桜。そのためか、例年なら入学式を華やかに彩る桜は、今年はすっかり葉桜。

新緑が新入生を歓迎していた文学館を囲む藤並の森も、一足先に緑が主役の初夏の様相。上着を脱いだ人々がゆっくりと散策を楽しむ姿が見受けられる4月となった。

昨春秋、文学館は開館20周年を無事迎えることができた。これまでご支援いただいた多くの皆様に心から感謝の気持ちをお伝えするとともに、今年度はまた新たな節目に向かっての1年目。文学館も時代の変化と無縁ではられない。

これまで永きにわたりよき隣人だった県立図書館が、昨年末に閉館した。人通りもちよびり少なくなり、文学館へ誘う道が少しさみしくなったというお声もいただく。

今年は、「知っていたら、来ていただく」の2年目。これまでより多くの方々、とりわけ読書離れを云われる若者や、小さいときから本の楽しさ、本との出会いの喜びを知ってほしい子ども達とご家族で、文学館が大いに賑わうことを願って、今年度の展覧会を企画している。

熱意あふれる学芸員達と、企画を練り、新しいことに果敢に挑戦する日々。やりがいのある時間が経過する。

ぜひ、大いなる賑わいにつなげていきたいと、思いを巡らす2年目の春である。

人事異動

【退職】

副館長 兼
総務事業課長

猪野 満

学芸課長

津田 加須子

総務事業課

篠川 佳子

【新採】

副館長 兼
総務事業課長

伊藤 和行

学芸課長

津田 加須子(再雇用)

総務事業課

植田 志帆

学芸員

福富 陽子

【転出】

主幹

谷岡 真衣

(新所属/岡豊高等学校)

高知県立文学館の職員による、館内おすすめスポットやひとことコメントです！

館報に関する感想・ご意見をお待ちしております！

館報「藤並の森」では、館の活動や高知県の文学情報を多彩にお伝えしています。

文学館の最新情報が分かる公式HPも見ちゃってね～☆

テーマ：私のおすすめスポット！

中2階のジョージ・ナカシマの椅子

中2階にあるジョージ・ナカシマの椅子。見るだけでなく、実際に座っていただく事もできます。



総務事業課/植田 志帆

テーマ：私のおすすめスポット！

こどものぶんがく室

土佐民話の絵本を読んだり、双六で遊んで頂けます。授乳室も完備。



総務事業課/北川 智絵

企画展 案内

池田あきこ原画展

ータシルの街とフォーンの森ー

2018 (平成30年) 4/7(土) ～ 6/24(日)

場所: 企画展示室 観覧料: 500円

猫のダヤン 握手 & 撮影会

日時 ● 6月10日(日)・24日(日)

各日14:00～

会場 ● 高知県立文学館
1階ロビー

出演 ● ダヤン

参加料 ● 要当日観覧券

申込 ● 電話または、
文学館受付

定員 ● 先着50名

池田あきこ ダヤンを読む

(ビデオ上映)

『音楽物語 ダヤンのアベコベアの月』

監督: 宇井孝司/音楽: 山本祐介

日時 ● 5月13日(日)、
6月17日(日) 各日14:00～

場所 ● 高知県立文学館1階ホール

参加料 ● 要当日観覧券

申込 ● 電話または、文学館受付

定員 ● 各日50名

TVアニメーション

猫のダヤン、
猫のダヤン日本へ行く

監督: 作田ハズム

キャスト: ダヤン…島本須美 ほか

日時 ● 5月27日(日)
6月3日(日) 各日14:00～

場所 ● 高知県立文学館1階ホール

参加料 ● 要当日観覧券

申込 ● 電話または、文学館受付

定員 ● 各日50名



© Akiko Ikeda / Wachifield Licensing, Inc. 2018



日時 ● 6月21日(木) 9:00～

場所 ● 高知県立文学館1階ロビー

参加料 ● 要当日観覧券

先着30名様に素敵なプレゼントが
あります。



その他の関連企画

朗読の会 (当館カルチャーサポーターによる池田あきこさんの作品朗読)

日時 5月19日(土) 14:00～15:00 / 会場 文学館1階ホール

おはなしキャラバン「ダヤンの絵本読み聞かせ会！」

日時 6月2日(土) 各日 14:00～(30分程度) / 会場 文学館1階こどものぶんがく室

展示解説 日時 会期中の土曜日 各日 13:30～(30分程度) ※4月7日・5月5日はお休み

会場 文学館2階企画展示室 / 参加費 池田あきこ原画展当日観覧券が必要

※館内メンテナンスのため、6月27日(水)・6月28日(木)は臨時休館
いたします。6月29日(金)より通常開館いたします。

次回企画展 予告

～デビュー35周年記念～

宮西達也 New ワンダーランド展
ヘンテコリンな絵本の仲間たち

平成30年 7/14(土)～9/2(日)

場所: 企画展示室

観覧料: 500円(常設展)

※1F体験ゾーンを利用される
場合は、別途200円が必要です。

絵本作家・宮西達也さんの原画展。
楽しい体験ゾーンもあります。



©宮西達也/円谷プロ

その他の催し

◆おはなしキャラバン

(毎月第1土曜日 午後2時～約30分)

※参加料: 無料 直接会場(こどものぶんがく室)にお越しください。

◆語りと紙芝居の会 定例会

(毎月第2土曜日 午後2時～開催)

※参加料: 無料 直接会場(ホール)にお越しください。

※8/11はお休み

◆朗読の会

(開催日: 5/19、6/16、10/20、
12/15、2/16、3/16の午後2時～)

※参加料: 無料 直接会場(ホール)にお越しください。

◆文学マイスター講座

(毎月第4土曜日 午後2時～開催)

※参加料: 無料 事前に申し込みが必要です。

※7月、8月、1月はお休み (全回修了者に素敵な特典付)

※文学マイスター講座についての詳細は、6ページ目をご覧ください。

◆近世土佐文学研究会

(毎週火曜日 午後1時30分～開催)

※参加料: 無料

※なお、7/10(火)～9/4(火)は文学館での開催はありません。

利用案内

開館時間 午前9時～午後5時(入館は、午後4時半まで)

休館日 年末年始(12月27日～1月1日)を除き、無休。

※その他メンテナンス等で臨時休館することもあります。

観覧料 一般360円 企画展はそれぞれ異なります。

20人以上の団体は2割引。高校生以下無料、

高知県・高知市長寿手帳、身体障害者手帳、療育手帳、

精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳および被爆者

健康手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料です。

なし。ただし近辺に有料駐車場があります。

駐車場 ホール、ミュージアムショップ、こどものぶんがく室、

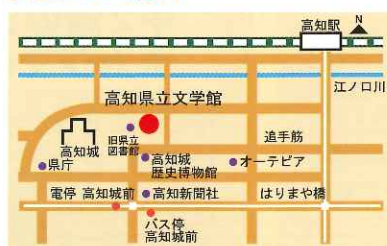
茶室「慶雲庵」

貸出施設 企画展示室、ホール、茶室

E-mail: bungaku@kochi-bunkazaidan.or.jp

http://www.kochi-bungaku.com

交通のご案内



- 高知龍馬空港より空港連絡バス<県庁前行>
「高知城前」下車、北へ徒歩5分または
<高知駅行>「北はりまや橋」下車、徒歩20分
- JR高知駅下車、徒歩20分(または連絡バス・路面電車を利用)
- 路面電車「高知城前」下車、北へ徒歩5分
- バス停「高知城前」下車、北へ徒歩5分

高知県立
文学館

〒780-0850

高知市丸ノ内1丁目1-20

電話 088-822-0231

FAX 088-871-7857

